

## 産官学グローバル連携による EDGE NEXT プログラム (Global Tech EDGE NEXT) (実施期間：平成 29 年度～令和 3 年度)

### 実施機関

主幹機関－東京大学（総括責任者：各務 茂夫）

協働機関－筑波大学、お茶の水女子大学、静岡大学

### 採択プログラムの概要

本プログラム主幹機関は、EDGEプログラムを牽引し、多くの大学発ベンチャーを生み出してきた東京大学である。協働機関は、世界有数の技術シーズを学際的に融合する筑波大学、グローバル女性リーダーを育成するお茶の水女子大学、世界で戦う製造業と共同研究を行ってきた静岡大学である。この4校でコンソーシアムを形成し、各校で蓄積してきたノウハウを共有し、グローバルな起業家人材を育成する。更に、国立研究機関、企業からの参加者も加え、技術を起点として多様なチームで社会的な課題に挑む。本プログラムは、基礎編・発展編・実践編からなる。基礎編では学部生を含め起業に興味を持つ人材を増やし、発展編ではメンタリングを中心にチーム演習等で基本スキルの向上を図る。実践編では、選抜チームに対して市場検証を通じて事業計画を投資レベルまで引上げる。基礎・発展編は、各大学の特色を活かして実施し、実践編はこれらの成果を融合し協働実施する。

### (1) 評価結果

総合評価	I. 目標達成度	II. 取組状況	III. 計画・改善手法の妥当性	IV. 今後の見通し
A	a	s	a	a

### 総合評価：【A】

アントレプレナーシップ教育提供コンソーシアムのロールモデルとなる取組みであり、今後のイノベーション・エコシステムの持続的発展も期待できる。

### (2) 評価コメント

国内で最も多くの大学発スタートアップを創出する東京大学のイニシアティブのもと、各機関の強みを生かし、民間企業、国立研究開発法人、海外等の多様性に富んだ連携を通じ、技術シーズ発のスタートアップを含むアントレプレナー育成に取り組んだことは評価できる。特に、基礎編、発展編、実践編の体系的なプログラムを日本経済団体連合会、JICA、産業技術総合研究所、海外機関等と連携しながら戦略的に推進し、また、協働機関のお茶の水女子大学や静岡大学も基礎編のフェーズを積極的に牽引する等、効果的に連携した。

本コンソーシアムでは、自立化に向け、アントレプレナーシップ教育を担う教員の育成、卒業生も巻き込んだ外部メンターの組織化、安定的な外部資金獲得への取り組み等も評価できる。

しかしながら、中間評価以降は新規性に富んだプログラムの開発等が少ないように見受けられた。本コンソーシアムはグローバルな起業家人材を育成することを目指していることから、海外大学等の先進的ノウハウを生かし、今後さらに積極果敢なプログラム開発等を期待する。

## I. 目標達成度

コンソーシアム全体として基盤的取り組みから発展的な人材育成の展開に至るまで幅広い領域を扱いながらも、初期の目標を着実に達成したことが認められる。

5年間の受講者総数は2,060名にのぼり、さらにそのなかから315件のビジネスプラン作成に関与するといった発展への流れは特に注目に値する。アントレプレナーシップ教育を担う人材の育成人数は110名と多様なアプローチから起業や新規事業の創出に係る取り組みを推進していることも特長である。留意事項等に対しても改善を加えながら適切に対応し継続的に進められた。

教員、若手VCに対する人材育成や、受講生の確保と受講後のアクセラレーションプログラム等に力を入れ、発掘醸成から育成さらには起業支援（PoC：Proof of Concept）まで切れ目なく支援した。

## II. 取組状況

主幹機関及び協働機関の特色をいかした形で個々でも充実を図り、それらを有機的に組み合わせグレードアップしたプログラムを提供した。プログラム参加者の約60%が学部生、15%が大学院生、7%が博士研究員を含む研究者、18%が国立研究所や企業から参加する等、本コンソーシアムのなかだけでも多様な関わりを実現し、そのなかで具体的にロールモデルとなる人材が複数育ったことも特筆すべき成果である。外部メンタープールを構築し、卒業生が次のメンター役となって教育から実践フェーズへ引き継がれる運営を構築したことや、国内外のスポットコンサルテーションサービスを活用し海外との連携を安定化させたこと、海外機関や国内政府機関との連携を重視したことも本コンソーシアムならではの取り組みであり、波及効果が期待できる。

後継プログラムへの引き継ぎも強く意識し、NEDO TCP や IPC 1stRound への接続も可能とした。多面的な活動によって持続的なエコシステム形成が見据えられている点も評価できる。

## III. 計画・改善手法の妥当性

外部資金導入額は、単年度でも5年間合計でも目標額を達成し、補助金の執行も海外研修の対応を中心に明確な用途で効果的に執行されている。外部資金の増加に向けては、今後は参加費以外の仕組みを模索しているように、より多様な獲得を実現していくことを期待している。

定期的に行われた各機関の持ち回り会議を通じて、事業内容の検証、学生アンケートの分析等から適宜活動内容の改善が図られた。

本事業の後半はCOVID-19の影響を受けたが、各機関の協力と連帯によって、海外に目を向けた活動も国内プログラムも工夫しながら着実に実行していることを評価したい。

## IV. 今後の見通し

次世代アントレプレナー育成事業のなかで最も強くグローバルな展開を意識して本事業を推進した。他のコンソーシアムと比べても一段高い次元を見据えてチャレンジし、それだけに4機関にかかる労力やプレッシャーも大きかったと言える。見据える方向はまさに日本がめざす向きでもあり、その先駆的役割を担う機関としてチャレンジを続け、波及していくことを期待する。

本コンソーシアムに参画する4つの機関は、各拠点都市のプラットフォームにおいて、裾野拡大に向けて先進的なノウハウを継承する重要な役割を担っていることから、今後のさらなる積極的展開を期待している。